

テーマ：『 生き物と親しみ、自然の大切さを感じ、よりよい環境を作っていこうとする子どもの育成 』

横浜市立 岡津小学校

Tel. 045-811-4104 担当 狩野 久幸

者：

大きく育った緑のカーテン



校庭の花壇に設置されたソーラーバッテリー



プールへのメダカの放流



顕微鏡投影機を活用しての授業風景



■実践内容： 1年目の今年は、校内で生き物や自然現象に関わる機会を増やし、子ども達に身近な自然環境や現象を意識づける活動を行なった。主な内容は、①校庭に田んぼビオトープを設置 ②学校敷地内の生き物の多様性を高め、ふれあう機会を増やす活動 ③校内に生き物観察コーナーの設置。④自然エネルギーを身近に感じる教材の提示などである。他にも昨年まで行なっていた畑の耕作と収穫、バケツを利用した稲の栽培、プールのヤゴ取りやメダカの放流などを引き続き行なった。

■実践成果： 多くの子ども達が、生き物や自然環境により関心を深めていった。夏休みの自由研究に生き物のことを調べたり、コンテストへの応募をしたりする子どもが大幅に増えた。総合的な学習の時間にも、土壌生物調査や川の生き物調査に取り組みたいという子どもたちの声が多く、区役所と連携をとって地域環境調査に取り組み始めた。さらに9月に来校された本市の指導主事からも校庭の活用方法を高く評価され、地域の方にも好評である。

■実践ポイント： 最初の半年は、なるべく多くの自然観察ができるような環境整備を教員や技術員を中心に行なった。池や田んぼなどの水辺環境づくりや校庭で見かける動植物の展示が子どもたちの興味を引き出し、夏ごろから自分達の活動になりつつある。身近な生き物にふれあうことから視野が広がり、地域の自然環境を調査したり働きかけたりしようとする意欲に発展したと思う。